

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274200219		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館白井		
所在地	〒270-1408 千葉県白井市西白井 3-14-9		
自己評価作成日	平成24年 1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ユニトレンド 株式会社		
所在地	千葉県柏市中央 2-9-16		
訪問調査日	平成24年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長生より長寿！ただ長生きして頂くのではなく、利用者様皆さんの居場所を作り、出来ることを応援し、頼りに思い生きがいを実感し楽しんで頂ける様、スタッフ一同努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いっしん館白井」は北総の静かな新興住宅地に建ち、明るく広くゆとりがありながらも家庭的な生活が実在する。事業所は、利用者が生き生きと生活できるよう、「明るく元気に大きな声で！」を理念に掲げ、『いっしんは生活の常識。施設の非常識』を念頭に、当たり前前の生活を当たり前に過ごす。を方針として運営している。毎月ご家族向けに発行される「いっしんだより」は、利用者ごとに決められた担当職員が、手書きでの利用者の情報や近況写真等を添えて現況報告を送り、ご家族等から喜ばれているホームである。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念、施設理念を掲げ、朝礼及び夕礼時に唱和し、日々意識付け出来る環境にて業務に当たっています。	職員全員が理念や社内の決め事十訓を入社時から共有し、毎日の朝礼時に全員で唱和することで意思の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント等の参加を地域の方々に声掛け、施設への理解と楽しみを共有、発信しています。	夏まつり・もちつき・バーベキュー等の事業所のイベントでは、地域の方に声掛けをして交流している。開設以来、こども110番・中学生の体験学習を引き受け地域貢献に努めている。	周辺の住宅環境もほぼ整ってきた。地域の方々の受入れと同時に、利用者と地域の方々との日常の交流に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こども110番を引き受け地域との連携を常に図っています。夏祭りなどのイベントの際は地域の方々にも参加して頂き、認知症の方でも楽しく生活できる事を理解して頂ける様に発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度運営推進会議を行い、サービスや勉強会の取り組み、状況等についての報告や話し合い、又ご意見を頂いてサービスの向上に活かしています。	市の関係者・利用者・利用者家族のメンバー構成で2か月に1回開催し、事業所の取り組みや現状等について報告や話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。	メンバーの一員として、民生児童委員・地域の関係者等の参加を望む。住民の参加から情報の取得や地域理解、地域との協働の機会も拡がると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員やボランティアの方々を招き、意見交換をしています。又、近隣の小中学生の職業体験の場としても施設を開放しています。	年2回、10～15名の中学生の体験学習の受け入れは、中学生からの感謝の手紙が利用者の楽しみとなっている。定期的な介護相談員や傾聴・太鼓・日舞・将棋等のボランティアの方々の協力を得ている。	事業所が認知症ケアなどの福祉サービスの発信拠点として、地域住民を対象にした介護教室の開催等の検討を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない事を全職員認識しています。施錠はしない仕組みを整え、玄関にセンサーを設置し、外出を察知し事故防止に努めています。	「あたり前の事を当たり前に」、いっしんの方針は全職員が認識し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関にはセンサーを設置して外出を察知できる仕組みを整え、事故防止と安全確保に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のミーティングを行い、職員相互にて指摘を行い、的確な対応がなされるよう注意を払っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいませんが、資料を用意し必要な際には閲覧できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際はご家族様に充分納得して頂けるまで説明を行い、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、利用者様やご家族様の意見・要望に即座に対応できるよう取り組んでいます。又、ご意見箱を活用しケアの向上に反映させています。	玄関口に御意見箱を設置し用紙とペンが置かれている。家族等は箱に入れず直接職員へ渡してくれるほどの信頼関係を築きそれらを運営に反映している。	今年度の利用者家族調査の回答率は約50%であった。昨年度と比べ回答は少なかったが、事業所への要望事項が多く見られた。ご家族との更なる関係構築に検討が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度は責任者立ち会いの、2ヶ月に1度は代表も含めた会議を行っており、職員の意見や声をくみ上げられるようにしています。	月1回のサービス担当者会議スタッフミーティングに於いて、利用者一人ひとりの振り返りと現状そして課題設定という場で、職員の意見や提案を反映している。	この一年で介護職員が大幅に交代している。この事はご家族からの要望にも記されており、重要な検討課題であろう。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1人1人の役割を作り、やりがいを持って業務に取り組めるような環境を作り、職員は責任を持って取り組んでいます。また、全ての職員に対し就業実績を作成しており能力に合わせた役を与えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回講師を招き社内研修を行っています。勤務の都合上全職員は参加出来ませんが順番に参加するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者への訪問等は行っていますが勉強会は設けておりません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の業務の中で利用者様一人一人と話す時間を作り、会話の中で本人の安心を確保する為のニーズをすくい上げています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	過去の生活習慣等を家族から傾聴し、本人の状況経過観察から、生活のリズムや習慣を掴んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画を作成し、何が必要なのかを考え、最良の支援が出来るように話し合いを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様と共に寄り添い家族同様なコミュニケーションを図るように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントや一泊旅行等の参加を、ご家族様と連絡を取り合い、気軽に参加して頂ける様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙のやり取りや個別のレクリエーションを行うことにより職員が付き添い外出、訪問を行っています。	個別の要望(今迄の医院・ふるさとへの帰郷・墓参り等)に職員が付き添い支援することで、馴染みの施設や人との関係継続と楽しみや生きがいに結びつけている。また、毎年恒例の一泊旅行も実施され家族と連携した支援を行っている。	一泊旅行は、重度化・高齢化が進む中で、事業者・ご家族にも負担の大きいイベントであると思うが、是非続けて欲しいと願う。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの関係を考慮して、職員が間に入り橋渡しを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもイベント等のお誘いを通じ最大限の協力をさせていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや暮らし方の意向を最大限に引き出し、把握し、応えています。ご本人様からのくみ上げが難しい場合はご家族様や親族様等から情報を頂き、本人本位に検討しています。	利用者一人ひとりに担当者を決め、利用者の思いや意向を引き出す努力を行っている。また、面会時やお便りの返信等によりご家族からも思いや意向を聞きだす等、取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には必ず面談を行い、以前の生活環境や習慣を把握するようにし、支援に反映させご本人らしさを引き出せるようにケアしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録を毎日記入し、日々の状況・変化をすばやく把握出来るようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じご本人様・ご家族との担当者会議の場を設け意見を取り入れています。それぞれの意向を介護計画に組み入れ取り組んでいます。	半年毎に見直している。必要に応じて本人・家族・関係者が話し合い、現状に即した介護計画を作成している。家族の参加が不可能な場合も個人記録、介護記録を精査・反映して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録を記入し、日々の状況を把握出来るようにしています。職員全員で今後の介護についての検討を行い、その都度計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の支援に着目し個別のレクリエーション等を通じてニーズに応えています。また当事業所はグループホーム・有料老人ホーム・介護付高齢者賃貸住宅の3本柱になっており、身体状況に応じた対応ができるようになっていきます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一回から2回はボランティアの方を招き、外部からの情報を利用者様に取り入れています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎に在宅診療にて診察を行っており、細かいことも医師に報告、相談し迅速かつ適切な医療を提供しています。	2週間に1度の訪問診療と毎週の歯科医師の口腔ケア等、適切な医療を受けている。訪問医療以外の受診には職員が同行し、適切な医療や看護を受けられる支援をしている。	投薬は出来る限り少なく・糖尿病には特に注意を払う等、かかりつけ医の指導のもと利用者の特性に合わせた医療支援を継続して欲しい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理記録や申し送りノートを活用し、介護職員との情報を共有出来る体制を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時などは頻度多く面会に行くことで利用者の状況を把握し、退院に向けて医師との相談を早期に行っています。又、ご家族にも報告、連絡、相談を都度行い連携をはかっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時の段階にて重度化・終末期のあり方を見据えたお話し合いさせて頂いております。又、ご家族様・ご本人様の意向を担当医・職員・事業所で見解を共有し、ニーズに添えるよう、担当医との連携を密に取りながら、支援に取り組んでおります。	終末期ケアについては、入居時の段階で事業所で出来ること出来ないことを十分に説明し、利用者・ご家族・担当医と話し合って方針を共有し、利用者家族のニーズに添えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急講習を修了しており、急変時にも的確に対応出来るようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い災害時の対応方法を訓練しています。又、近隣住民の方々にも理解をいただき、協力していただけるよう関係づくりをおこなっています。	年2回の防災訓練の内、一回は消防署の立ち会を得ている。災害時の対応方法など消防署員の指導の下で実施している。スプリンクラーは既に設置済みである。	難しい課題ではあるが、近隣住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の検討を期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人、その利用者様にあった言葉掛けを行い、利用者様の人格・尊厳を大切にしています。	声掛けは利用者によって異なり方言を使って声掛けするなど、その人に一番合った方法をとっている。	一人ひとりの人格を尊重する(個の場合も集団の場合も)事は、作業やゲーム等において本人の楽しみを生むきっかけになり、利用者全員の日常が穏やかで安定した生活になっている。継続に期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様・職員共に喜怒哀楽を共感し、日々の信頼関係を構築し、一人一人の利用者様の感情を出せるよう、支援しています。また決定権は利用者様ご本人様と定め、決定が困難な場合のみ助言などを用いて決定できるよう促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ずご本人様のニーズなどを優先し利用者様のペースにあわせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別レクや買い物などを利用し、ご本人様に衣類を選んで頂き、また、髪形も好きなように楽しんで頂ける様支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立を掲示し、調理も利用者様と一緒に作り食事を一層楽しいものにして頂ける様、努力し後片づけも職員と談話しながら行い、楽しさを感じて頂ける様環境作りに取り組んでいます。	75歳以上が9割(85歳以上が6割弱)と高齢者が多く、おのずと調理や片付けを手伝える利用者も限られている。職員は個々に出来ることを支援し、利用者全員が食事を楽しむことが出来る援助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた食事形態や水分の摂取を行っており、摂取量の把握も健康記録表に記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に合わせて声掛けをし介助を行っています。また週一回の歯科往診があり、その都度指導を頂き、的確な口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の利用者様の排泄パターンを理解し、不快なく行えるよう声掛けや誘導を行っています。排泄意識のない利用者様にも快適に排泄を行えるようトイレに座って頂き排泄出来るよう支援しています。	利用者ひとり一人の排泄パターン(失禁時のショック・トイレの位置認識・仕草等から個々の様子を読み取る)を把握し声掛けと誘導を行うことで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	認知症や高齢者の方には便秘の及ぼす影響を全職員周知しております。まずは、薬に頼ることなく適度な運動や牛乳などの食品から便秘予防・解消を図っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は一切決めておらず、利用者様の希望に合わせて入浴して頂いております。	入浴は一日を通して可能である。利用者は一人平均週2～3回、毎日希望の場合は毎日、冬は足が冷えた時・身体が汚れた時や薬の塗布の時など、一人ひとりに沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に安眠して頂ける様、布団干し・換気を行い環境を整えております。また、共同スペースも利用者様に快適に休息して頂ける様環境スペースを設けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師との連携を密にとり、薬剤指導を二週間に一度設けております。また各利用者様の薬剤情報が常に把握出来るよう閲覧場所を定め、重要性を肝に銘じ、服薬支援にあたっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様にあった役割を設け支援し生活を送っていただいております。また嗜好など居酒屋レクや祝い事などその時々楽しみなどで利用者様の娯楽を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出レクを設け、外に出ることの楽しさを大切にしています。また個別レク等を行い少人数で利用者様が安心して頂ける工夫や利用者様の希望する故郷へ足を運ぶように支援しています。	毎月必ず外出レクリエーションが設定され、利用者は戸外へ出かける楽しさを味わっている。また、個別の対応では、配偶者の告別式への出席を支援するなど個人の要望に沿った素晴らしい支援も行っている。なお、例年恒例の利用者・ご家族合同の一泊温泉旅行も実施された。	利用者の高齢化と共に、外出機会が減りつつあるが、カラオケによって利用者の表情が豊かになるなどの新しい発見がある。継続を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の希望や残存機能に応じて、支払い・管理を行っています。また管理が困難な場合は支払いのみを行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者様の希望に応じ、自由に使用して頂いております。また番号が押せないなどの場合は職員がお手伝いして電話というコミュニケーションツールを利用し、会話を楽しんで頂いてます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションなどの写真を掲示し、目で楽しむ工夫をしています。飾り付けも子供っぽくならないよう気を配り、季節感などその季節にあった飾り付けをし、家具等も用いてアットホームな環境作りをしています。	ゆとりある広いリビングには和室が有り、椅子使用の炬燵・ソファ・大きなテレビ等、一人ひとりが思い思いに居心地良く過ごせるアットホームな工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやコタツ、和室があり、利用者様が自由に伸び伸びと生活できるように環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた家具や仏壇などを自由に持ちこんで頂き、ご本人様がご本人様らしく過ごせるよう支援しています。	利用者一人ひとりの生活に大きな変化を生じさせないよう、使い慣れた家具や仏壇等を持ち込んでいる。利用者の趣味のものも飾られて居心地良く過ごせる工夫をしていた。なお、居室の空調管理は事業所で個別に行い、問題の発生を未然に防いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全バリアフリーになっており、全体に手摺を設置しています。車いすの方も自由にトイレにいけるスペースがあり、自尊心を損なわないようにトイレがどこにあるかわかる工夫をしています。		